

## 医療的ケア 喀痰吸引研修を受けて

「たんの吸引(口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部)」と「経管栄養(胃ろう、腸ろう、経鼻経管栄養)」を行える介護職員等を養成するための研修です。

喀痰吸引等研修は医療行為を行う対象者(不特定多数の方と特定の方)で研修が異なりますが、私は、施設内の特定の方が対象の研修を受けました。研修を受けた事で、痰が絡んでいた時、看護師が近くにいなくても迅速に吸引する事ができるようになりました。また、経鼻経管栄養の注入では、注入する物の説明や香り、色などを話しながら時間の共有ができ、メンバーの生活の手助けができるようになりました。

メンバーに対してできる事が増えた事で、不快感や苦しさの時間が軽減し、安心して過ごせるようになっていないかと思えます。

支援員 村木 智幸

## 防災訓練

下関消防署、山口防災株式会社の方に来ていただき、避難訓練、消火訓練、火災報知器の使い方、避難袋の使い方などの訓練をしました。

万が一に備えて訓練をする事で、いざという時に少しでも冷静に対応できるのではないかと思います。そのためにも、参加者一人一人の訓練に対する意識が大切だと改めて感じました。



## 介護研修

メンバーが生活していくうえで移乗介助は欠かせない介助の一つです。メンバーも職員も安全な介助ができるよう、定期的に日ごろの介助方法を振り返り、改善するための研修をしています。

併せて、日本基準寝具株式会社ECOLさんより介護用品の紹介をしていただきました。メンバーが安心して生活できるよう、心のこもった介助と適切な介護用品の活用的重要性を感じました。



## 寄付者一覧

令和2年2月末現在(順不同 敬称略)

やまぐち小児科/六人会/梅崎淳/理事/中野貴博  
田中和子/花笑み/金原洋治/梅光学院  
梅光学院幼稚園保護者会/国際ソロプチミスト海峡下関  
さをり織りサークル/じねんじょ窯/れんげ畑  
大畑一郎/かねはら小児科

ありがとうございました

## 編集後記

皆様からのご協力をいただき、第33号の広報誌を無事に発行することができました。

ご協力・ご支援頂いた皆様に深く感謝いたします。令和始めて第2弾の広報誌です。前号から、じねんじょメンバーの活動様子やセンターとしての取り組みを掲載しています。日頃の活動の様子をご覧ください。

## 重症心身障害者地域生活支援センター



発行者: 社会福祉法人じねんじょ  
発行日: 令和2年4月1日  
TEL: 083-252-2227  
FAX: 083-252-2259  
E-mail: jinenjo@jinenjo.or.jp  
http://www.jinenjo.or.jp

# 大地

(じねんじょ通信)

VOL. 33  
2020/04

## 令和3年春、新しい施設を開設します!

今年はオリンピック・パラリンピック東京大会などでワクワクする年になるはずでしたが、新型コロナウイルスの流行により不安感漂う春になりました。早く流行が終息することを願っています。

2004年の4月に開設したじねんじょは、16年目の春を迎えました。16年の間に社会の状況は大きく変化しました。障害者支援の分野では、新生児医療や在宅医療の進歩による胃瘻や経管栄養、在宅酸素・吸引・気管切開などを受けながら在宅で暮らす人が増えています。福祉分野の法律やサービスの改訂や創設、福祉事業所が増加、雇用の状況なども大きく変化しており、じねんじょが地域の中で求められる役割も変化していると感じます。

じねんじょ開設時は、知的障害者通所更生施設、重症心身障害児(者)通園A型事業、心身障害児(者)デイケア事業デイケアハウス(県単独事業)を運営する社会福祉法人でしたが、その後の法律や制度の変更、支援ニーズの変化などにより、現在は、生活介護、児童発達支援(重症児型)、居宅訪問型児童発達支援、放課後等デイサービス(重症児型)、ヘルパーステーション、相談支援事業などを運営する法人になっています。

令和3年度の春の開設を目ざして新しい施設の準備を進めています。この新施設は、総合支援学校高等部卒業後の子ども達の受け皿を増やすことを目ざした生活介護を主体とした施設です。この数年間、いくつかの場所が候補に上がりました。近年の人材確保の状況を勘案し、できるだけ近くの場所が運営しやすいという結論に達し、昨年、道路を隔てた旧西京銀行跡地を購入し準備を進めているところです。

自己資金だけでは建設することは困難であり、今後の法人の安定した運営のためには、借り入れをできるだけ少なくする必要があります。そのため、寄付金をお願いしたり、銀行からの借り入れも必要になります。

皆様にもご協力ご支援をお願いすることになるとは思いますが、よろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人じねんじょ 理事長 金原 洋治

## 令和元年10月20日(日)に「じねんじょフェスティバル2019」を開催しました。

「手をつなごう地域と共に～令和に奏でるハーモニー～」をテーマに、じねんじょ15周年記念企画として、抽選会や音楽コンサートをを行い、参加された皆さんと楽しい時間を過ごすことができました。

その他、カップインゲーム、パステル、折り紙などの催し、福祉施設の食品販売、手づくり雑貨販売等、たくさんの方のお力添えをいただき、大盛況のうちにフェスティバルを終えることができました。ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました。



## 生活介護じねんじょ 本体



みんな大好きなミュージックテーブル。  
音楽に合わせてミュージックテーブルを叩くといろいろな音が鳴って楽しい!!



スポーツセンターの出前教室。準備体操をしっかりと風船バレーで活動しました。風船の中に入っている鈴の音やカラフルな風船に刺激を受けています。



田邊ピアノ教室の先生をお招きしてクリスマスリトミック♪暖かい冬でしたが季節の歌で、クリスマスの雰囲気を楽しみました。



新年は書初めでスタート!指筆を使って、新年の抱負を書きます。



FCバレーン下関代表の福原康太さんが遊びに来てくれました。リフティングの披露の時には思わず歓声があがりました。

## 生活介護じねんじょ ひなた

音楽活動で、職員による楽器演奏を披露しました。メロディが流れると、笑顔になったり、口ずさんだり、静かにじっと聞いたりして、音楽を楽しんでいるようでした。  
一緒に楽器に触れてみると、より笑顔が増えて嬉しそうなお様子も見られ、楽しい時間がすごせています。



## 生活介護じねんじょ だいち

Jくらぶは結成して14年目に突入しました。令和元年度の目標は、他施設で2回発表会を行うことでした。最初は、王司山田園からの交流ポッチャのお誘いをきっかけに、Jくらぶの演奏をさせていただく機会を得ました。もう1回は、フェニックスに依頼をし、発表の場を作っていただきました。発表日時が決まってからの練習は、より意欲的になり、日に日に上達していく様が見て取れました。たくさんの拍手をもらい、メンバーもやりきることができました。

今は、次の発表会に向けて新曲に取り組み、練習に励んでいます。ご協力いただいた施設の皆さま、ありがとうございました。興味のある方は、ぜひ、オファーをお待ちしております。



## 居宅介護事業所ヘルパーステーション ふわり

ヘルパーステーションふわりはメンバーの余暇や通院のための外出に同行し、身体介護やコミュニケーションの支援をしています。その一つである余暇時間充実を図る支援では、メンバーのこれまでの経験や趣味から興味のあるイベントに参加したり、楽しみの幅が広がるよう新たな体験に挑戦できる外出を実施しています。外出先は下関市内や北九州市、山口市の屋内外のイベント施設・商業施設などです。

メンバーが安心・安全な時間を過ごせるように、事前に外出先までの交通手段、目的地での食事や休憩場所、トイレの場所などを確認して外出するようにしています。ふわりを利用されるメンバーの中には横になって排泄介助をする必要がある方もおられますが、今現在、大人用ベッド(ユニバーサルシート)の設置は十分とは言えません。トイレにユニバーサルシートの設置がない場合、外出先の建物やその近辺で部屋を用意していただくよう協力を依頼します。要望が叶うこともありますが、その場所が倉庫であったりイベント関係者の控室の一角であったりして人の出入りに気を遣いながら排泄介助を済ませるといったこともあります。

また、どうしてもスペースが確保できず外出を断念せざるを得なかったことも少なくありません。障がいをもっている方も住み慣れたこの地域で、わたしらしく楽しく安心して暮らすために、ユニバーサルシート設置を求めていきたいと思っています。

## 児童発達支援事業むくっこ・放課後等デイサービス事業むく

今回は、日頃よりパステル画の講師として関わっていただいている、アートビレッジ39藤井先生より、パステル画の指導で大切にしていることをお聞きしました。

**「感性は宝物です!!」** パステル講習を続けて、今年で13年目になります。多くのメンバーさんが、パステル講習に慣れてきて、意識づけがしっかりとできているようで、自分のものになってきている様子にとてもうれしくなります。

パステル講習の目的は、毎回作品を作ることだけではありません。ゆっくりと色に触れ、自由に描いていくことで、言葉ではうまく表現できない“気持ち”の部分にそっと触れ、心と身体をリラックスしていきます。また自由に色に触れて描いていると、色を通してそのときの感情が様々な表現され、そこにアートの原点を垣間見ることが出来ます。

アートで大切なものは「感性と技術」です。とりわけ感性においては、その方自身の性質や感覚、そしてこれまでの経験から得たすべての要素が蓄積されて作られていくものです。これまでメンバーさんが『生きる』ということを通して練り上げてきた感性は、時に繊細で、時に粗々しく、そして真つすぐで力強く...それがアートという世界の中で表現されたときに、とても純粋で奥深い作品になって、人の心に届いていくのだと実感しています。28年間絵を描き続けてきた表現者としての私にとっても、その感性に触れることはとても貴重な時間になっております。これからもそのような素晴らしい感性の一つ一つが、何か形になって、多くの方と共有できるように、そして無限の可能性を大切に、メンバーさんとの素敵な時間を過ごしていきたいと思っています。

パステル画家/アートセラピスト/社会福祉士 藤井 元康

## 「ポスコン?!2020」で快挙!!

秋吉台国際芸術村で開催されるポスコンに、今年も活動で取り組んだパステル画を応募しました。むく、むくっこより、5名の作品が選ばれました。日頃からの藤井先生のご指導の賜物であり、作品からあふれ出るメンバーの感性が、作品を評価していただいた審査員の方々にも届いたのだと思います。これからもメンバーの感性がより豊かに表出できるように、私たちも共にいる時間を大切に過ごしていきたいと思っています。



カルスト賞:濱口大輔(10歳)



洞窟賞:磯野月飛(2歳)



洞窟賞:白木翔弥(15歳)



入選:岩本雄司(8歳)



入選:出畑愛(12歳)

## じねんじょ公開フォーラム2019を開催しました

今年度のじねんじょ公開フォーラムは、NPO法人ふわり 社会福祉法人むそう理事長 日本福祉大学客員教授の戸枝陽基氏を講師にお招きしました。当日は一般と職員とを合わせて約80名の参加となり、会場の皆さんと一緒に戸枝氏の熱のこもった講演を聴くことができました。

今回の公開フォーラムのテーマは「みんなで支えるー医療的ケアが必要な子どもたちの暮らしー」でした。国は2016年に児童福祉法の改正を行い、地域における医療的ケア児の支援体制の整備に向けた取り組みを自治体に義務づけています。全国的にみて医療的ケア児の支援体制にはまだまだばらつきがあるように感じています。戸枝氏にはこれから私たちが自治体任せにするのではなく、それぞれの立場で何に取り組む必要があるのかといった支援の方向性を示していただきました。

今回アンケートにご協力いただいた50名の皆様の感想を紹介したいと思います。

### 【研修内容について】

- 医療的ケアや地域包括システムについて、知識がなかったので、様々な取り組みを知ることができて、とても勉強になった
- 福祉の現状、障害者・医療的ケア児について普段知る機会の少なかつた情報にふれることができた
- 障害のある人たちと社会・地域とどうつながるのか、視点を多くいただけたと思う
- 普段仕事で行き詰ってしまうこともあるが、今日の話を書いて夢があるなあと感じた
- 固定的な自分の考えがまったく違う考え方、方向からの支援の仕方があることなど多くの話が聞けた
- 医療的ケア児の人生が、より満足ができ、社会で生活できるようにかかわって行きたいとあらためて思うことができた